

入間川のまるごと再生プロジェクト進行中



新富士見橋から上流、本富士見橋方面を望む

埼玉県は、県土に占める河川の面積割合が3・9%で日本一です。県では、世代を超えた人々が川に集い、学び、楽しむ、そしてアユが泳ぎ、ホタルが舞うような風景を目指して「川のまるごと再生プロジェクト」を進めています。今月号では、プロジェクトの一つに選ばれた入間川がこれからどのように変化していくのかをご紹介します。

入間川のまるごと再生プロジェクト始動

県では、平成20年度から「清流の復活」と「安らぎとにぎわいの空間創出」の二本柱で川の再生を進めています。そのリーディング事業として、23年度まで県内100か所の水辺を集中的に整備する「水辺再生100プラン」を実施し、入間川も2か所が整備されました。そして、24年度からは、市町村のまちづくりと一体となり、一つの川の上流から下流までをまるごと再生する「川のまるごと再生プロジェクト」にステップアップし、市や町から応募のあった提案の中から10の川が選定されました。

これら10の川は、まちづくりと一体的かつ地元自治体や地域住民の方々と協働して、線的にも面的

にも再生の輪をさらに大きく広げる川の再生を展開し、「川の国埼玉」の実現を目指します。

入間川は、狭山・川越両市が提案したアユが遡上できる魚道の整備やそれを結ぶ遊歩道などが評価されて選ばれました。27年度の完成に向けて動き出しています。

狭山市での取組み

事業の推進にあたっては、地域住民、河川環境に関する活動を行っている団体、市や県も参加してワーキングチーム狭山市部会を設立し、計画段階から地域と行政が一体となつて取り組んでいます。

今年度は、狭山市部会が提案した基本計画に基づいて、測量や設計を行い、調整を図りながら、9月

ごろ工事に着手します。なお、先行して昨年の12月から河川の堆積土の撤去を行い、レキ河原(※1)の再生を行っています。その後、上奥富用水堰、田島屋堰、笹井堰のアユの魚道の整備と、入間市境から川越市境までの右岸と入間市境から広瀬橋の左岸側(※2)に遊歩道の整備を行います。そして、すでに水辺再生100プランで整備を終えている下奥富河川敷公園と昭代橋から本富士見橋間の遊歩道も含めて、中心市街地のまちづくりと連携した整備を行います。

(※1)レキ河原…小石で形成された平らな河原
 (※2)右岸・左岸…下流に向かって右手が右岸、左手が左岸

問合せみどり公園課へ
 内線2241

《田島屋堰～いるまがわ大橋》



魚などの水生生物に住みやすい環境を与える「わんど」



よみがえったレキ河原



昭代橋から新富士見橋を望む



水辺再生100プラン整備済箇所



自然観察の場



下奥富河川敷公園内の遊歩道



春



秋

春の「桜」、夏は「入間川七夕まつり」、秋の「灯の川」、冬は橋から「真っ白な富士山」を眺める